

## 今後の調査予定

青谷上寺地遺跡でみつかった古代山陰道の延長線上にあたる青谷西側丘陵でも、大規模な切通しを確認していることから、来年度は青谷西側丘陵で調査をさらに進めていく予定です。



青谷西側から青谷平野を望む(西から)



**湯梨浜町石脇第3遺跡**  
青谷西側丘陵から国境を越え伯耆国に入ると、湯梨浜町石脇第3遺跡で伯耆国笠置駅家とみられる建物跡が見つかっています。



**山陽道の布勢駅家(播磨国・兵庫県)イメージ図**  
(提供:北海道教育大学教授中村太一)  
駅家は役所(官衙)や寺院と同じく瓦葺きの格式高い建物が建っていたと考えられています。

## 参考資料

### 古代山陰道とは？

古代山陰道は、飛鳥時代から奈良時代にかけて律令国家が整備した大規模な道路である駅路の一つです。駅路は「七道駅路」とも呼ばれ、都と地方を最短距離に結び、情報をいち早く伝えるために全国に張り巡らされました。駅路は発掘調査により、直線的で幅広く、側溝なども備えていたことが明らかとなっています。

### 青谷の古代山陰道とは？

青谷平野では、青谷横木遺跡と青谷上寺地遺跡で古代山陰道と考えられる道路遺構が発見されています。道路はいずれも盛土工法で築かれ、国内で初めて土地区画である条里地割もセットで確認されています。また、道路の盛土内には葉や枝を敷き詰め、道路盛土の地盤を補強し、排水を行う「敷葉・敷粗朶工法」と呼ばれる高度な土木技術が確認されています。当時の青谷平野は弥生時代から続く潟湖が依然として残されており、軟弱地盤を克服するためにこうした高度かつ、最先端の土木技術が駆使されたと考えられます。さらに、青谷横木遺跡では国内初となる柳の並木が発見され、重要な発見が相次いでいます。



古代山陰道推定ルートと発見された道路遺構



# 古代山陰道 - 青谷町養郷地区 -

令和2年度発掘調査現地説明会資料

令和2年9月27日  
鳥取県埋蔵文化財センター

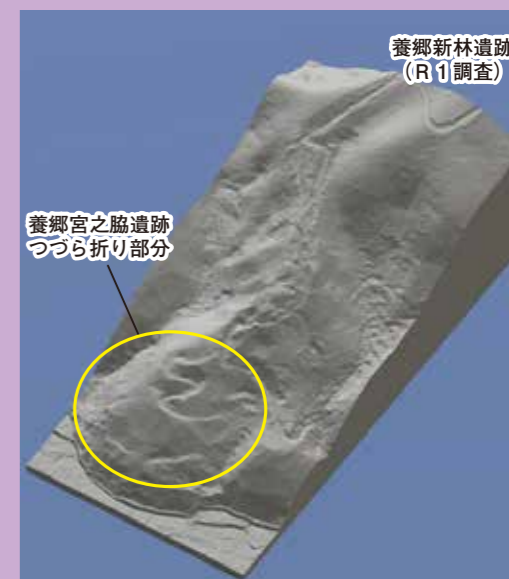
鳥取県埋蔵文化財センターでは、平成30年度から古代山陰道のルートや構造、築造時期の解明を目的とし、本格的な調査研究を進めています。令和2年度は、青谷東側丘陵の養郷狐谷遺跡と養郷宮之脇遺跡の発掘調査を行いました。

## 発掘調査概要

<b>養郷狐谷遺跡</b>	【所在地】 鳥取市青谷町養郷字狐谷など
	【立地】 養郷新林遺跡の東側、標高141～167m前後の丘陵尾根から谷部
	【調査期間】 令和2年6月5日～令和2年10月
	【調査面積】 約40㎡(トレンチ3本)
<b>養郷宮之脇遺跡</b>	【所在地】 鳥取市青谷町養郷宮之脇
	【立地】 養郷新林遺跡の西側、標高35～73m前後の丘陵急斜面部
	【調査期間】 令和2年7月14日～令和2年10月
	【調査面積】 約43㎡(トレンチ5本)

## 今回の調査成果

1. 養郷狐谷遺跡と養郷宮之脇遺跡のいずれも、幅9mの大規模な道路遺構が確認されました。昨年度に発掘調査を行った養郷新林遺跡で確認した道路遺構の延長線上にあたり、同じ規模や構造を持つことから、古代山陰道にあたる考えられます。
2. 道路遺構は、養郷新林遺跡と同じく3時期の変遷をたどる可能性が高く、つくられた当初、幅の広がった古代山陰道が次第に規模を縮小していく様子を改めて確認することができました。
3. 養郷宮之脇遺跡のつづら折りの道路遺構は、古代官道では全国初の調査事例で、貴重な成果といえます。古代官道は都と地方を最短距離で結ぶため、直線的につくられたと考えられますが、今回の調査によって、斜度が30度を超えるような急峻な地形ではつづら折りとなっていた可能性があります。
4. 今回の調査により、青谷東側丘陵における古代山陰道が、養郷坂と会下坂を結び峠を越えるルートであった可能性がさらに高まりました。



養郷宮之脇遺跡のつづら折りの道路遺構と3次元地形図



古代山陰道推定ルートと発見された道路遺構

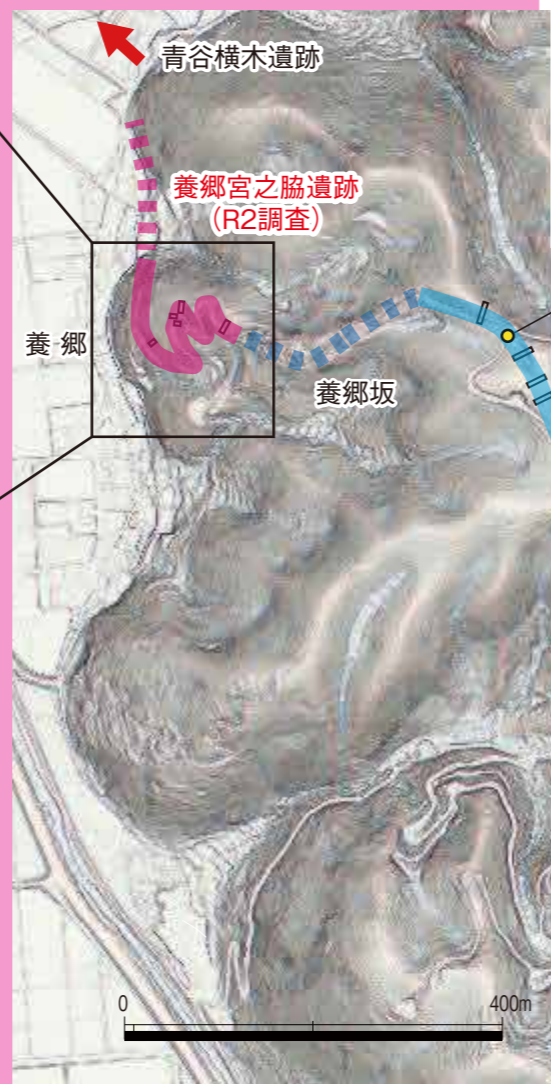
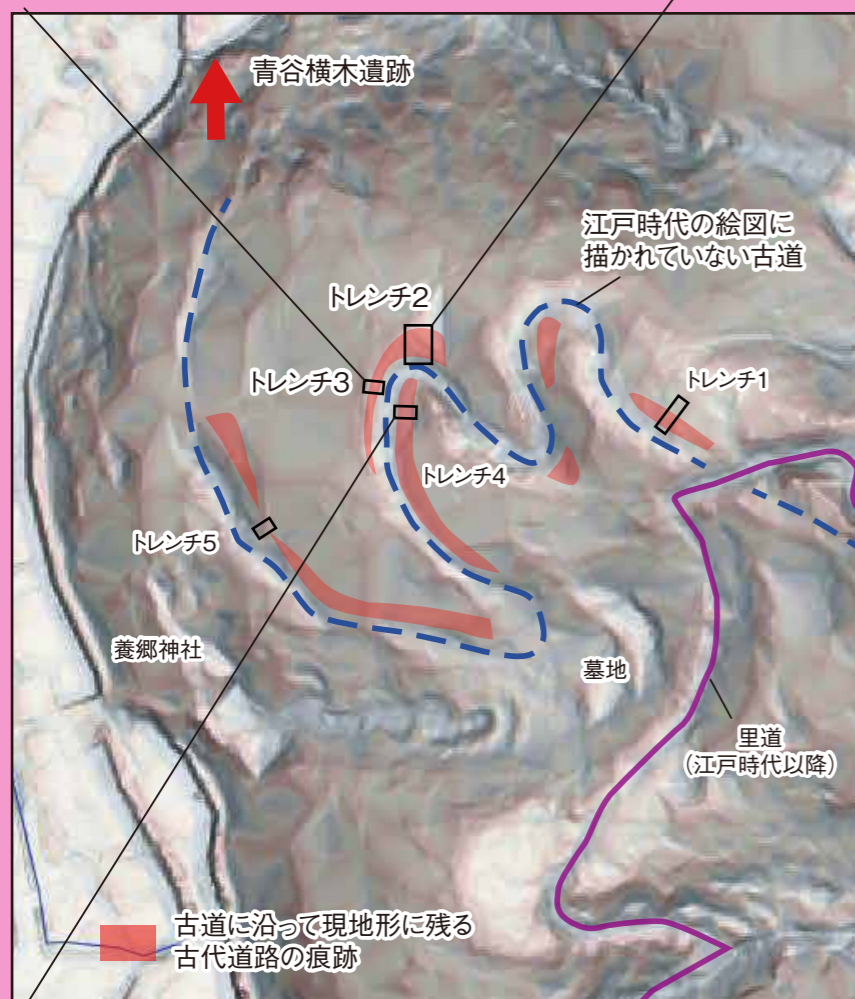


ようごみやのわき  
**養郷宮之脇遺跡**



トレンチ3 (南西から) : ヘアピンカーブ外側

トレンチ2 (北東から) : ヘアピンカーブ外側



トレンチ4 (南から) : ヘアピンカーブ内側

養郷宮之脇遺跡は、標高35~73m前後の急斜面に位置しています。現地踏査や航空レーザー地形測量による微地形の観察によって、現地形に残るつづら折りの古道に沿って、古代の道路痕跡とみられる人工的な地形を確認しました。発掘調査の結果、両側に側溝を持つ、幅9mのつづら折りの道路遺構を確認しました。

ようごきつねだに  
**養郷狐谷遺跡**



トレンチ1 (北東から) : 丘陵頂部

トレンチ2 (南西から) : 丘陵尾根端部

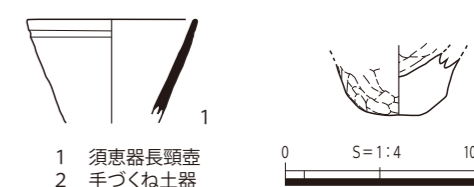
養郷狐谷遺跡は、標高140~167m前後の東側丘陵で最も高い場所に位置しています。

発掘調査の結果、側溝をもつ幅9mの道路遺構を確認しました。昨年度の養郷新林遺跡と同じく、大規模な道路が次第に規模を縮小していったことが明らかとなりました。

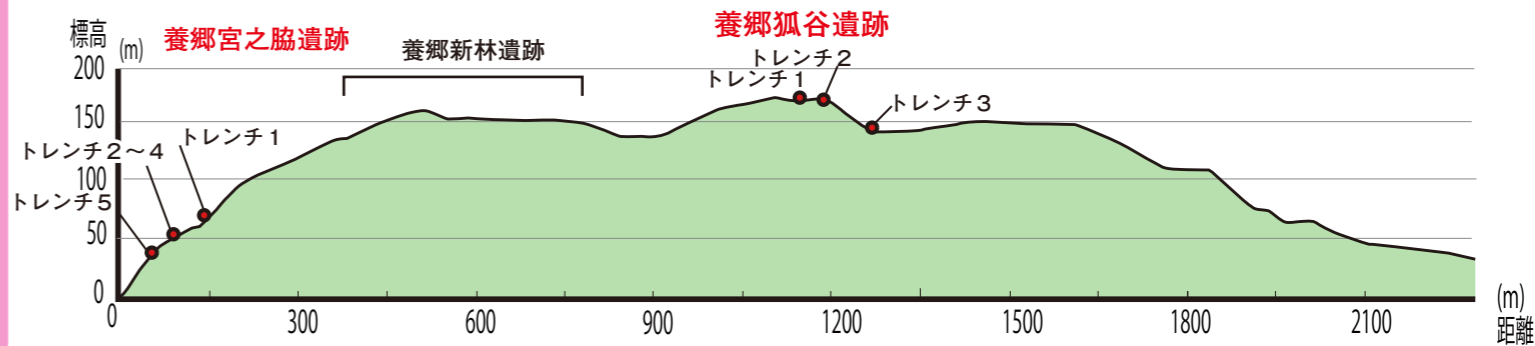


トレンチ3 (北から) : 丘陵間の谷部

養郷狐谷遺跡出土遺物



地形図は鳥取県が実施したレーザー測量図



青谷東側丘陵地形横断面図

※国土地理院HPから作成  
縦横比 2 : 1